

疑惑をもたれる 行動は厳に慎みたい

二月五日、参議院予算委員会で民主党の金子洋一議員が、日本歯科医師連盟による「迂回寄付」疑惑報道に関しての質問を行った。質問では、日歯連盟が行った行為は政治資金規正法の規制を逃れるための「迂回献金」ではないかとして、高木幹正会長らの参考人招致を要求した。

二月五日、参議院予算委員会では、金子洋一議員が、日本歯科医師連盟による「迂回寄付」疑惑報道に関しての質問を行った。質問では、日歯連盟が行った行為は政治資金規正法の規制を逃れるための「迂回献金」ではないかとして、高木幹正会長らの参考人招致を要求した。

日歯連盟は「法的には問題ない」とし、石井、西村両議員は、議員の名前を冠してはいるが運営等に関する回答はしていないと回答した。二〇〇四年に日歯連盟が起こした「ヤミ献金事件」等では多くの逮捕者を出し、その後の診療報酬改定にも影響を与えたといわれている。同時に国民の信頼も失ってしまった。

その後の十年間、歯科界は事件の反省の地に立ち、信頼回復に努めてきた。8020を目標とした高齢者の口腔の改善、在宅や施設への訪問歯科医療の

推進。口腔の衛生状態とがん治療との関係等、全身疾患と歯科との関わりが重要視されるようになってきた。災害時には歯科が身元確認の重要な役割を担うなど、現在はさまざまな場面で歯科の位置づけが大きく変わろうとしている、まさにその時である。

そういった流れに水を差すこのような報道は大変残念である。築き上げてきた国民との信頼関係に再び溝がはいらないことを祈るばかりである。

また、この報道を機に歯科界は改めて襟を正す必要がある。「疑惑」をもたれるような行動は行うべきではない。疑惑をもたれる行動は厳に慎みたい。